

芸芸芸芸芸

芸亭 うんてい 奈良時代の末期、石上宅嗣 いそのかみのやかつぐ が開いた、わが国最古の公開図書館。『続日本紀』 しよく によると、宅嗣がその旧宅を阿闍寺 あしゆく として、寺内の一隅 げてん に外典（仏教関係以外の書）を収蔵する書庫を設け、芸亭と名づけ、閲覧を希望する好學の士があれば、自由にこれを許したとある。芸亭の「芸」は香草のことで、虫を防ぐため書籍に挟んだのが書籍の別名になったからとか、阿闍如来 にょらい を示す梵字 ぼんじ の「ウン」と同音の漢字からとったとの説がある。その場所は奈良の法華寺 ほっけ の南東の地で、近年この地の発掘調査が行われた。

< 大塚徳郎 >